りょうかわ

学校だより　令和3年4月30日発行　第2号　新潟市立両川小学校

コロナ禍でもできることを工夫しながら

校長　　中村　雅芳

４月２８日（水）は，ご多用中にもかかわらず，学習参観ならびに学級懇談会，ＰＴＡ総会にお運びいただき，ありがとうございました。各学級では「主体的・対話的で深い学びのある授業」を目指して，学級担任が工夫して授業を展開しました。

１年生　国語「お手本と同じように書くにはどこに気をつけたらいいのか？」
２年生　国語「相手に伝わるように音読するにはどう工夫したらいいのか？」
３年生　国語「一画加えて新しい漢字を作ってみよう」
４年生　国語「あとで説明するための聴き取りメモはどのようにとったらいいのか？」
５年生　社会「日本の長い川にはどんな特徴があるのか？」
６年生　国語「同じ部分があり読み方が同じ漢字を見つけよう」

上記のような学習課題で子どもたち一人一人が追究していくために，ある学級ではタブレットを用いたり，ある学級では教材を自作したり，ある学級では動作化させて試行錯誤を促したりと，授業者は様々な工夫を凝らしました。とりわけタブレットは，今後ますます重要な手立てとなっていきます。家庭学習の道具として活用する日も，やがてやってきます。そのときには，ご家庭でのご理解，ご協力をぜひ，お願いいたします。

【GIGAスクール構想で個別最適化された教育を目指します】

【森 新会長から 藤田 旧会長へ感謝状の贈呈　‥ありがとうございました！】

これ以降は，ＰＴＡ総会でご挨拶したことの再掲です。子どもたちの健康・生命を守るためにご理解・ご協力いただきたいことですので，ご精読いただければ幸いです。

各種報道でも周知の通り，新型コロナウイルスの感染状況は１年前と比較して悪化しており，新潟市内の小・中・高等学校でも児童生徒の感染による学級閉鎖が散見されています。一体いつまでこの状況が続くのか，不安，疲れ，怒りが，社会全体を支配しているようにも感じます。しかしながら，新型コロナウイルスへの予防策が明確になったことと，ワクチン接種という希望が見え始めてきたことは，１年前と明らかに違います。ただやみくもに恐れるのではなく，正しく恐れることができるようになったことが，大きな変化だととらえています。

当校の教育活動においても「コロナ禍だからしてはいけない」というこれまでの消極的な姿勢から「コロナ禍でもできることは何か？」という積極的な姿勢で，教育活動を工夫・創造・継続し，子どもたちの成長を促してまいります。そのためには，これまで以上に感染症予防対策を徹底します。常時マスク，常時換気，常時ディスタンス，常時消毒を職員一丸となって進めます。

同時に，例えば明日，当校の児童に陽性者が出た場合にも備えます。新潟市教育委員会からの指示や指導に基づき，もしもの場合のシミュレーションを，すでに職員間で行っています。変異株がこれだけ流行し，感染経路も追えない昨今の状況です。いつ，誰が，どこで感染してもおかしくありませんし，陽性者を責めることはできません。

陽性者が出たある学校でのお話です。情報を伝えた直後，保護者からの問合せが学校に殺到しました。自分の子どもが感染しないか，不安なあまりに詳細な情報を求めてくる人，学校の対応への不満をぶつけてくる人など様々だったそうですが，中には，陽性者を特定するような，誹謗，中傷，非難を含んだものもあったそうです。保護者の気持ちに寄り添えば，そのような反応は十分理解できます。しかしながら，行き過ぎた感情の発露は，他への怒りは，確実に陽性者への「差別」につながります。

約１年前の学校だよりに，映画「コンテイジョン*」のお話を書きました。その結びに「本当に怖いのは，人間の恐怖という感情そのものだ」と書きました。陽性者が仮に出ても，当校は新潟市教育委員会と保健所の指導の下，粛々と対応していきます。どうか保護者の皆様も冷静に，くれぐれも「コロナ差別」など起こさぬようにお願い申し上げます。

さて，いつもＰＴＡ総会の場で申し上げることですが「子育てほど尊い行為はない」というのが私の信条です。子育てには大きな喜びがありますが，人には言えない苦労や不安もつきものです。困ったことがあれば絶対に一人で抱えず，私たち教職員を「子どもを共に育む同志」として頼りにしていただき，何でも相談していただければ幸いです。子どもたちの健全な成長を共通の目標として，共に手を携えて歩んでまいりましょう。

＊2011年，アメリカ映画。香港で，謎のウィルス感染が発生。現地の人々はおろか，香港からアメリカ・イギリス・日本に帰国した人々が一斉に体調を崩し，数日後に死亡する。その後も，ウィルスは驚異的なスピードで世界に飛散。米国疾病予防管理センター（ＣＤＣ）や世界保健機関（ＷＨＯ）は治療法を探るが，原因の究明とワクチンの開発は困難を極め，その間にも感染者は爆増。さらに著名ブロガーが陰謀論を訴え，不確かな治療法を流布することで，各地で買い占めや暴動が頻発。世界は未曽有の危機に陥っていく。